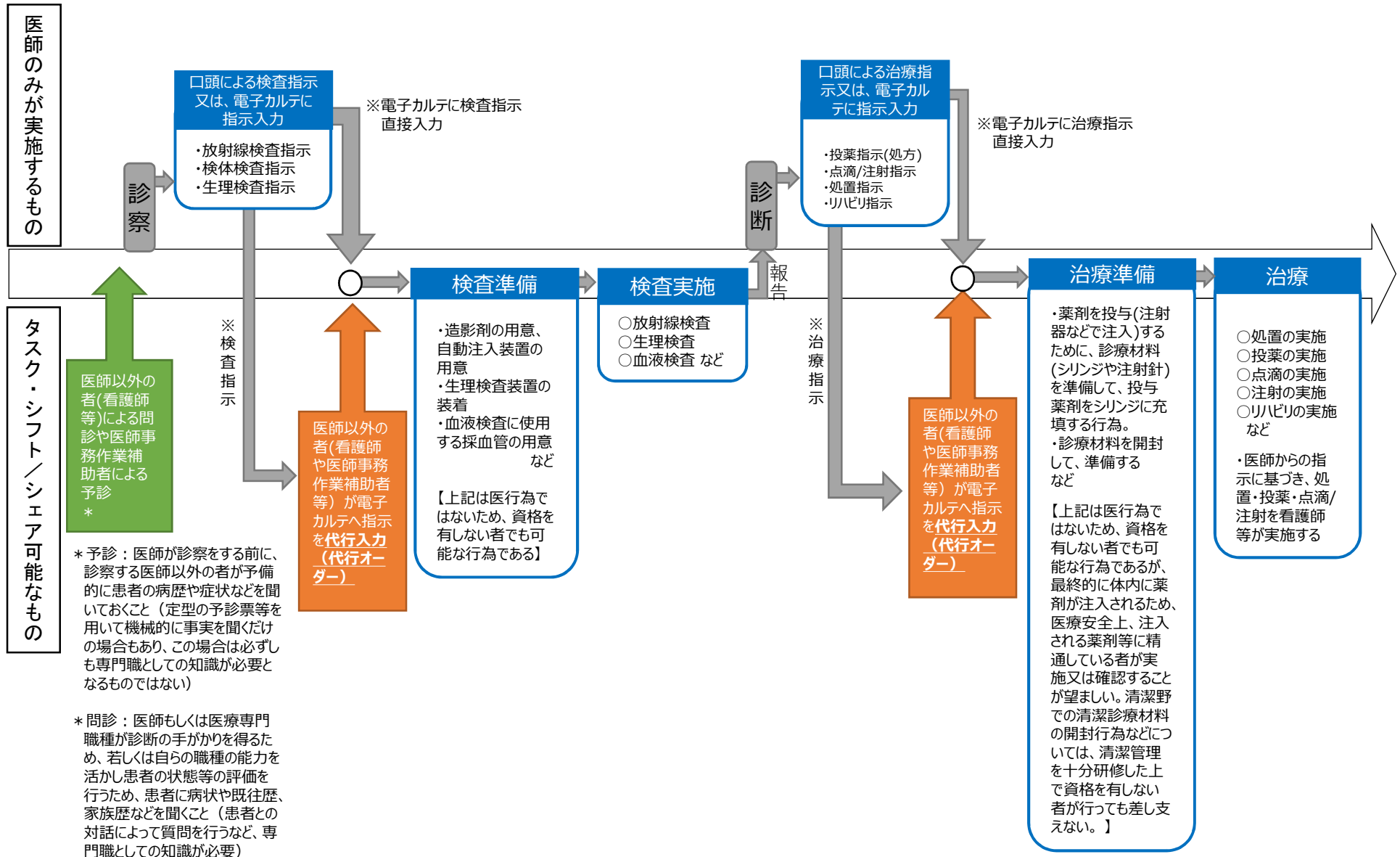


第4回 医師の働き方改革を進めるための タスク・シフト/シェアの推進に関する検討会	参考 資料 1
令和元年12月25日	

診療のプロセスにおける役割分担について

診療のプロセスにおける役割分担

- 検査指示や検査オーダー、代行入力、検査実施、薬剤投与、（検査・治療などの）準備などの用語を用いて医療行為を説明する際、説明を受けるものによって、行為の範囲（イメージ）にバラツキが生じることがあるため、一般的な診療の流れを整理したもの
- 検査や処置の内容に応じて実施の前までに医師が確認すべき事項もあることに留意



* 予診：医師が診察をする前に、診察する医師以外の者が予備的に患者の病歴や症状などを聞いておくこと（定型の予診票等を用いて機械的に事実を聞くだけの場合もあり、この場合は必ずしも専門職としての知識が必要となるものではない）

* 問診：医師もしくは医療専門職種が診断の手がかりを得るため、若しくは自らの職種の能力を活かし患者の状態等の評価を行うため、患者に病状や既往歴、家族歴などを聞くこと（患者との対話によって質問を行うなど、専門職としての知識が必要）